

## 信仰の働き 愛の労苦

テサロニケ人への手紙 第一  
聖書研究の手引き

## 1 THESSALONIANS

# 信仰の働き 愛の労苦

*Paul, Silas and Timothy, To the church of the Thessalonians in God  
the Father and the Lord Jesus Christ:  
Grace and peace to you. We  
always thank God for all of you,  
mentioning you in our prayers. We  
continually remember before our God and  
Father your work, produced by  
faith, your labor prompted by love,  
and your endurance inspired by hope in our Lord Jesus Christ.*



テサロニケ人への手紙 第一  
聖書研究の手引き

# 信仰の働き 愛の労苦

## テサロニケ人への手紙第一 聖書研究の手引き

---

### 聖書研究の目的

聖書研究の目的は、グループで聖書を学び、互いの知識と信仰を深めると同時に、神さまというひとつの目的に向かっているという連帯感を持ち、ひとりでは生み出せない力によって、信仰をより確かなものとする事です。

### テサロニケ人への手紙を学ぶ目的

この手引きは、2000年度兵庫ブロックの4回生リーダーミーティングのメンバーたちが、学内活動の目的に合わせて作成しました。

テサロニケ人への手紙では、テサロニケのクリスチャンというひとつのグループの成長を見ることができます。

福音が語られた時から始まり、悔い改めと信仰の応答、信仰の熟練までが記されています。そのため、テサロニケのクリスチャンと学内グループを結び付け、共通点を探ることができます。

この手引きの目的は、学内グループを建て上げる事です。そのため、神との関係の再確認、互いの関係の成長、またチャレンジが与えられるようにと願っています。

### 聖書研究の進め方

手引きにそって、聖書箇所に基づき、自由にディスカッションができるように進めてください。十分に準備された聖研であれば、クリスチャンであってもそうでなくても、誰でも参加することができます。

## パウロの宣教活動とテサロニケ

パウロはAD49年、シラスとテモテを伴って第二回伝道旅行に出発、トロアス、ピリピを経てテサロニケに立ち寄った。

当時テサロニケは、ローマ帝国マケドニヤ州の首都の地方監督が置かれ、商業の盛んな港湾都市であった。人々はヘレニズムの影響を強く受けていたが、ディアスポラのユダヤ人も多く居住し、彼らの会堂がそこにあった。パウロたちはその会堂で伝道活動を行い、この地にキリスト教徒の群れが誕生したが、ユダヤ人たちがこれをねたみ、町のならず者を抱きこんだ暴動を起こしたため、やむなくこの地を去らざるを得なくなった。

テサロニケを離れ旅を続けたパウロは、再度そこを訪問したいと願ったが果たせず、アテネに来たとき、彼らの安否を問うために、テモテを自分の名代として派遣した。そのテモテがアテネからコリントに移っていたパウロのところに帰ってきて、テサロニケ教会の事情を報告した。それはとても良い知らせであった。信徒たちはパウロのことを覚え、苦難の中で立派に信仰を保持しているということであった。また彼らからの質問もあった。そこで早速筆を取ったのがこの手紙である。

## テサロニケ教会について

たった三週間、パウロがみことばを宣べ伝えたことよってできた教会。

パウロとシラスはテサロニケに行き、ユダヤ人の会堂に入り、三つの安息について、聖書に基づいてユダヤ人たちと論じ合った。そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、論証し、「私が伝えているこのイエスこそ、キリストなのです」と言った。そして会堂にいてパウロの語るのを聞いていた人たちのうちの幾人かは、よく理解し、パウロとシラスに従った。そのほ

かに神を敬うギリシャ人が大勢おり、貴婦人たちも少なくなかった。

ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたり（パウロとシラス）を人々の前に引き出そうとして搜した。しかし見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人か（テサロニケ教会の兄弟たち？信じた人々？）を町の役人のところへひっぱって行き、「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにも入り込んでいます。それをヤソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、イエスという別の王がいると言って、カイザルの詔勅にそむく行いをしているのです。」こうして、それを聞いた群衆と町の役人たちとを不安に陥れた。彼らはヤソンとそのほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをペレヤへ送り出した。使徒17:5-10

このような背景の中で、テサロニケ人への手紙は書かれた。

## 聖書研究のテーマと箇所

全体的なテーマ

「信仰の働き、愛の労苦、キリストへの望みの忍耐」(1:3)

### I. 信仰の働き 1

「神に立ち返ったテサロニケの人々」1:1-10

テサロニケのクリスチャンたちの救いの証し—私たちの救いの証し

### II. 愛の労苦 1

「福音を伝える者、伝えられた者」2:1-16

パウロの模範的な働き—私たちの証し

### III. 愛の労苦 2

「最後まで関心を持っていたパウロ」2:17-3:13

パウロの愛—私たちの交わり

### IV. 信仰の働き 2

「神に喜ばれる生活」4:1-12

神のみこころ、聖くなること—私たちの信仰の成長

### V. キリストへの望みの忍耐

「主イエス・キリストへの望みの忍耐」4:13-5:11

キリストの再臨とそれにふさわしい生き方—私たちの世界観

### VI. 愛の労苦 3

「クリスチャン生活の秘訣」5:12-28

神が全く聖なる者としてくださること—私たちの信仰の適用

## I

### 信仰の働き 1

## 神に立ち返ったテサロニケの人々

1:1-10

テサロニケのクリスチャンたちの救いの証し—私たちの救いの証し

### Introduction

自分のことばでクリスチャンを定義してみましょう。「クリスチャンは・・・」に続く文を完成させてください。

<1:1-10 を読みましょう>

1. テサロニケの人々はどのような転機を経験しましたか。
2. 彼らは以前はどのような神を信じていましたか。また今はどのような神を信じていますか。
3. 彼らにとって、イエスはどのような方だと思われていますか。
4. 福音はどのようにテサロニケの人々に届けられましたか。  
(参:使徒 17:1-3)
5. 語られた福音の内容はどのようなものでしたか。

6. 次の言葉に○か×を付け、理由を分かち合ってください。
- ( ) 「テサロニケの人々の救いは神の働きでした」
  - ( ) 「テサロニケの人々の救いはパウロの働きでした」
  - ( ) 「テサロニケの人々の救いは福音の働きでした」
  - ( ) 「テサロニケの人々の救いは聖霊の働きでした」
  - ( ) 「テサロニケの人々の救いはテサロニケの人々自身の働きでした」

7. テサロニケの人々の例から考えると人はどのように救われますか。

8. 福音に対するテサロニケの人々の応答はどのようなものでしたか。具体的にどのように現れましたか。

#### 適用

1. テサロニケ人の救い、経験、証しと、自分の経験を比べて分かち合いましょう。
2. あなたにとってどのような「偶像」がありますか。その偶像から離れることが難しいならどうしてですか。
3. 「信者の模範」になるためにはどうすればよいでしょうか。

## II

### 愛の労苦 1

#### 福音を伝える者、伝えられた者

2:1-16

パウロの模範的な働き—私たちの証し

#### Introduction

1. 「友人への証しはムダだ」と思ったことがありますか。あればどうしてそう思ったのでしょうか。
2. 友人にイエス様について話そうとするとき、どのような困難がありますか。
3. 友人にイエス様のことを話したことがあるなら、そのときどのような反応がありましたか。

<2:1-16 を読みましょう>

1. どのような状況の中でパウロによって福音が伝えられましたか。
2. パウロはどのような姿勢、態度で福音を伝えましたか。
3. テサロニケの人々は福音をどのように受け取りましたか。
4. パウロはテサロニケのクリスチャンに何を期待していますか。  
(参:1:7-8)

5. 1節でパウロは「あなたがたのところに行ったことは、むだではありませんでした」と述べていますが、パウロは何をもってむだではなかったとしたのでしょうか。

#### 適用

1. 福音を聞いたとき「事実どおりに神のことば」として受け入れましたか。またその神のことばが、信じた私たちのうちに働いていると確信を持って言えますか。
2. 信仰と証しの生活が無駄にならないために何ができるでしょうか。
3. この学びから、福音を伝える者、また伝えられて信じた者として、どのようなことを教えられましたか。

### Ⅲ

#### 愛の労苦2

#### 最後まで関心を持っていたパウロ

2:17-3:13

パウロの愛—私たちの交わり

<2:17-3:13 を読みましょう>

1. パウロは何を願っていましたか。(17)
2. 17節で、心においては引き離されていない、と言っていますが、なぜそのように言えるのでしょうか。
3. 18節に「サタンが私たちを妨げました」とあります。妨げられた経験があるなら分かち合ってください。
4. パウロはどのような目的でテモテをテサロニケ教会に遣わしたのですか。(1-5)
5. パウロが生きがいとしていることは何ですか。また慰めは何によって受けますか。(7-8)
6. パウロが神に感謝をささげようとしているのはなぜですか。(9)

7. パウロは何をどのように祈っていますか。(10-13)

8. パウロの祈りにはどのような願いが込められていますか。

### 適用

1. この学びから、あなたが学んだことは何でしたか。

## IV

### 信仰の働き 2

#### 神に喜ばれる生活

4:1-12

神のみこころ、聖くなること—私たちの信仰の成長

#### Introduction

最近の生活を振り返り、神に喜ばれていないと思うことがあれば書き出してみましょう。

<4:1-12 を読みましょう>

1. パウロは何にあって語っていますか。(1)
2. 神のみこころは何ですか。(3-8)
3. 「聖くなる」とはどういうことだと言っていますか。
4. クリスチャンの男女の振る舞いはどのようなべきですか。それはなぜですか。
5. 「さらにますます」互いに愛し合うとはどのようなことでしょうか。

6. 「落ち着いた生活」(11)とはどういうことだと思いますか。

VI

7. 生活と証しについて、どのようなことが教えられていますか。

**適用**

1. あなたの生活が神に喜ばれるためには、何が必要ですか。

**V**

**キリストへの望みの忍耐**

**主イエス・キリストへの望みの忍耐 4:13-5:11**

キリストの再臨とそれにふさわしい生き方—私たちの世界観

**Introduction**

あなたは死んだらどうなると思いますか。

<4:13-5:11 を読みましょう>

1. テサロニケの人々は何を心配していますか。
2. すでに死んだ人はどうなりますか。
3. 主が再び来られたとき、生き残っている者はどうなりますか。
4. 私たちの復活の根拠、希望はどこにありますか。
5. なぜこのことが慰めになるのでしょうか。(18)
6. 主の日はいつ来るのですか。(5:1)



7. 「光の子ども、昼の子ども」(5)を説明してください。



8. 主は何のために死んでくださったのですか。

9. なぜこのことが励ましになるのでしょうか。(11)

#### 適用

1. テサロニケのクリスチャンたちは、「キリストへの望み」から忍耐が与えられました(1:3)。それはどのようになったのでしょうか。
2. 死に直面している人、苦しんでいる人をどのように励ますことができるでしょうか。

## VI

### 愛の労苦 3

#### クリスチャン生活の秘訣

5:12-28

神が全く聖なる者としてくださること—私たちの信仰の適用

#### Introduction

あなたにとって「クリスチャンらしい」とはどのような人ですか。

<5:12-28 を読みましょう>

1. パウロはテサロニケのクリスチャンに何を求めていますか。(12-15)
2. クリスチャンは何を、どのようなときに喜びますか。(16-18)
3. 喜びと祈りと感謝はどのような関係があると思いますか。
4. 19-22 でパウロは何をすすめていますか。それはなぜでしょうか。
5. 「すべてのことを見分ける」(21)方法は何でしょうか。
6. 「良いもの」(21)とは何でしょうか。

7. 悪を避けるにはどのようにすればよいでしょうか。

8. 「責められることのない人」(23)とはどのような人でしょうか。

### 適用

1. 「すべての兄弟たちに読まれるように」(27)とあるように、当時のテサロニケの兄弟たちはもちろん、現代の私たちにも読んでほしいとパウロは思っています。そして、パウロが「……してほしい」と言っている部分は、そのようにしてほしいとパウロのみならず、18節にあるように神が望んでおられます。わたしたちはそのようにできているか、するためには何が必要か、よく考えてみましょう。

「信仰も、もし行いがなかったら、それだけでは、死んだものです」(ヤコブ 2:17)

2. 手紙全体の内容を思い返し、あなたがテサロニケの人なら、この手紙をどのように受け止め、パウロにどのような返事を書くでしょうか。「パウロへ……」の後を続けてみましょう。

2001年3月 初版発行  
2009年8月 改訂版発行

著者 兵庫ブロック学生・主事  
監修 グラハム・スミス (KGK主事)  
発行者 キリスト者学生会 関西地区主事会  
発行所 〒530-0012 大阪市北区芝田 2-2-1  
新梅田ビル 112号